

《 今日の主なニュース 》

～ 日経ニュースなどを中心に抜粋 ～

◆現預金の使い道、上場企業に説明責任 金融庁が統治指針改訂へ

・金融庁はコーポレートガバナンス・コード(企業統治指針)を5年ぶりに改訂する。上場企業が現預金をため込みすぎず適切に活用しているか、説明を求める方向で検討する。企業に人材や成長分野への投資を促す狙い。法人企業統計によると、資本金10億円以上の企業が保有する現預金は24年度に82兆円と、20年間で約2倍に積み上がった。

◆IMF委、世界経済「成長底堅いが緊張も」 共同声明は出せず

・国際通貨基金(IMF)は米首都ワシントンで運営方針を決める国際通貨金融委員会(IMFC)を開いた。世界経済について「成長は底堅いが、緊張も生じつつある」と盛り込んだ議長声明を公表した。地政学的な問題を巡って一部の国から反発があり、共同声明は出せなかった。

◆救急患者のマイナ保険証情報、病院に一斉送信 受け入れ判断しやすく

・総務省消防庁は救急隊が患者のマイナ保険証で得た情報を搬送先候補の医療機関に一斉送信できるようにする。既往歴や薬剤情報、受診歴などが分かれば、病院側は受け入れの可否を判断しやすい。搬送件数が増えて病院収容までの所要時間が延びるなか、より早く受け入れ先を決められるようにする。

《 業界ニュース 》

～ 日経ニュース・日刊工業新聞・新建ハウジングなどを中心に抜粋 ～

◆排出上限、取引制度開始の26年度は業界中位を基準に 経産省方針案

・経済産業省は2026年度に大企業中心で始める排出量取引を巡り、二酸化炭素(CO2)の排出上限の定め方に関する方針案を明らかにした。業界ごとに25年度などの排出量をもとに算出。制度開始時は企業の活動量あたりの排出量の中位を基準とする。30年度は中位から上位32.5%の水準に基準を厳しくして、排出上限を引き下げる。

◆改修向けの建築基準法説明会、11月に東京で追加開催

・国土交通省は、9月から全国で開催している「建築物の改修に係る建築基準法のポイント説明会」について、東京会場での追加開催を決定。追加開催の日程は11月26日(水)で、9時30～12時30分および14～17時の2枠。会場はビジョンセンター東京虎ノ門。建築基準法の基本的な事項から各種のガイドライン、緩和措置などについても解説する。

◆浴室に床暖房、ニーズ温め パナソニック系が鏡・棚レスで1割安く

・パナソニックハウジングソリューションズは、暖かさや安全性にこだわった新たなバスルームを開発。電気式床暖房やつかみやすく姿勢を保ちやすい手すりを取り付けた。戸建てに住むシニア層の需要を取り込んでいく。従来の浴室モデル「ほっとビバス」と比べて11%安くし、浴室に鏡やカウンターをつけないなど簡素化、価格を抑えた。

《 注目商品 》

■パナソニック アラウーノにオート開閉標準搭載で25.9万円

・全自動おそうじトイレ「アラウーノ S160 タイプ1K」は、便ふたの「オート開閉機能」を標準搭載。一般的なオート開閉機能付きのタンクレストイレよりオート開閉なしと同価格の25万9000円で設定。従来のタンクレストイレよりも約10万円安い設定。



■DEWALT、42%静音化したインパクトドライバー

・従来比42%静音化した「18V XRブラシレス・サイレントインパクトドライバー(DCF870E2T)」を発売。締め付け時の打撃音がソフトな油圧式のインパクト機構により約42%の静音化に成功。狭い場所でも扱いやすい101mmのコンパクトヘッド、56N・mのトルクを実現。



■ダイケン、集合住宅・店舗向けゴミ収集庫

・集合住宅・店舗向けに扉の開閉音が静かなゴミ収集庫「クリーンストッカー(R) CKR-G-2型シリーズ」から幅1000mm・奥行750mmサイズ1機種を発売。外面がグレーカラーで、落ち着いたきのある空間を演出。最も幅が小さいサイズを追加発売し、計7サイズのラインアップ。

